

令和7年度 広報・出版小委員会

日 時： 令和7年11月28日（金）12時00分～13時00分

場 所： サンポート高松

出席者： アナワット, 荒木（顧問）, 五十里, 井手, 川崎（顧問）, 北野, 鳴原,
中村, 二宮, 浜口, 伴野, 比嘉（敬称略, 50音順）

斜体 は都合つかずとの連絡あり

*五十里委員, 伴野委員が任命. 下園委員が退任.

議事

1. 役割分担の確認

全般

- ・ サーバ管理（鳴原・川崎）
- ・ cecom 管理（比嘉・井手・川崎）
- ・ 英語サイト（アナワット）
- ・ 土木学会国際センター情報グループ関連（比嘉）
- ・ 水工学に関する夏期研修会に関する HP 更新（二宮） ※ 2026年度は金沢大学が担当

各種委員会の HP 更新

- ・ 「広報・出版小委員会」（全員）
- ・ 「論文集編集小委員会」（中村・五十里）
- ・ 「Coastal Engineering Journal 編集小委員会」（アナワット）
- ・ 「沿岸域研究連携推進小委員会」（川崎）
- ・ 「沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会」（北野）
- ・ 「沿岸災害デジタルツイン研究小委員会」（二宮）
- ・ 「波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会」（荒木）
- ・ 「沿岸域における気候変動適応策に関する研究会」（二宮）
- ・ 「波動モデル研究会」（川崎）
- ・ 「地域研究活性化 WG」（荒木）

講演会準備関係

- ・ 講演会 DVD 内に収録する業界案内の依頼文の作成（鳴原）
- ・ プログラム（B5, B3 版）構成案および広告枠配置の検討（鳴原・比嘉）
- ・ 海講プログラムアプリ（伴野・鳴原）

【各種委員会の HP 更新状況の確認】

- ✓ 担当者変更を確認.
- ✓ 荒木顧問担当の「地域研究活性化 WG」は来年 6 月で終了予定.
- ✓ 長年更新されていないページへの対応方針については、委員会名称の変更などがあるため、後日各担当者に再確認する。対応可能な範囲は鳴原小委員長が担当.

【講演会プログラム閲覧アプリに関する確認】

- ✓ 現状の運用を定着させ、その後、改善を検討することになった.
- ✓ 講演プログラムデータを担当者（伴野委員）に直接渡すことで、作業の効率化が可能.
- ✓ HP・プログラム・受付に QR コードを掲載する案を確認した.
- ✓ 現在は無料サーバを使用しているため、高アクセスに耐えられない可能性がある。次回以降は海岸工学委員会のサーバの使用を検討する.

2. ホームページ, サーバ, cecom の管理

- ・ サーバーセキュリティ対策特命 WG からの引継ぎ（川崎顧問→鳴原）
 - ・ Word Press のアップデート
 - 自前では困難。業者委託が必要。可能であれば定期的にメンテナンスしてもらえると良い.
 - 更新する場合、次年度のアブスト投稿が始まる前に実施する必要あり。土論特集号の投稿・査読情報ページ（Wiki）が動かなくなると困る.
 - ・ cecom 管理の状況
-
- ✓ HP のメンテナンスは業者対応とする方針となった.
 - ✓ Word Press アップデート・セキュリティ対応はハイドロ総研へ依頼する予定であることが川崎顧問より報告された.
 - ✓ 今年度予算で実施（土論特集号アブスト投稿開始前の来年 2 月までを目標）することを確認した。来年度以降も特集号 wiki を継続使用の予定.
 - ✓ cecom の引き継ぎは可能な状態。マニュアルも作成済みであり、今後、鳴原小委員長が確認する.
 - ✓ 現在未使用のサーバー 1 台（さくらサーバー）を解約予定であることが報告された.

3. 海岸工学にまつわる本の紹介コラム

第 28 回までが掲載済み。

第 19 回 北野	第 29 回 浜口
第 20 回 北野	第 30 回 中村
第 21 回 北野	第 31 回 二宮
第 22 回 中村	第 32 回 アナワット
第 23 回 Bricker	第 33 回 井手
第 24 回 松本様（不動テトラ）	第 34 回 比嘉
第 25 回 鈴木	第 35 回 伴野
第 26 回 山城	第 36 回 川崎
第 27 回 嶋原（2025 年 6 月）	第 39 回 荒木
第 28 回 下園（2025 年 11 月）	第 40 回 北野

※上記の順番を飛ばして本を紹介する場合は、事前に小委員会メンバー全員に問題がないかを確認すること

- ・更新間隔は 4 - 6 か月。6 月・11 月を基本とする。

4. その他

- ・来年度の第 73 回海岸工学講演会
 - ホルトホール大分
 - 2025 年 11 月 10 日（火）～11 月 13 日（金）
 - ・要相談事項：SNS 開設の可能性について
- ✓ 来年度の開催情報（期間・場所）が確認された。

【SNS 開設の可能性について議論】

- ✓ SNS 開設の目的と方針：若手への情報発信を主な目的とする。意見が入らないよう、発信内容や投稿手順に関する明確な方針を設定する必要がある。
- ✓ 媒体の検討：どの媒体が適切か検討を行った結果、最新の媒体は運用ハードルが高いとの意見があった。X（旧 Twitter）が総合的に見て最適ではないかという意見でまとまった。
- ✓ 運用体制：運用は小委員会全体ではなく、委員長・副委員長を中心に進めることが望ましいとの意見があった。ただし、気軽に投稿できる体制とするため、小委員会全員が投稿可能な形が望ましいとの意見も出た。
- ✓ 投稿内容と頻度（X の場合）：定期的な投稿が必要であり、あまり堅くない内容が望ましい。cecom で流す内容を X でも発信するイメージが共有された。
- ✓ 媒体選択に関する情報共有：X での長文投稿には有料版（年間数万円）の利用が必要であるという情報が共有された。Youtube 等の他の媒体についても、今後引き続き検討を

進めることが決まった。

- ✓ 今後の対応：小委員会として、SNS 導入の方向で次回の幹事会へ報告することが確認された。

11 月をもって、荒木顧問（大阪大学）が委員会を退任されることとなった。